

第3回安曇野市観光振興ビジョン有識者会議 会議概要

- 1 会議名 第3回安曇野市観光振興ビジョン有識者会議
- 2 日時 令和2年6月25日 午後2時から 午後3時55分まで
- 3 会場 安曇野市役所本庁舎 4階 大会議室東
- 4 出席者 宮田弘康委員(会長)、白澤勇一委員(副会長)、川崎克之委員、松元久委員、加集安行委員、米澤章雄委員、坂倉とも子委員
- 5 担当課出席者 商工観光部 鎌崎部長、観光交流促進課 大竹課長、下里係長、由井係長、古畑
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 令和2年7月2日

協 議 事 項 等

【次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議
- 4 その他
- 5 閉会

【協議内容】

令和1年度までの評価結果について

事務局 前回の会議後、委員各位から提出いただいた評価表をまとめた。人数最多のものをその項目の評価としてあるのでご確認いただきたい。

会長 1項目ごと確認して意見をいただいていく。

(以下、項目ごと、主に少数の評価の意見を聞く。前回の続きの[(3)-2]から)

(3) 安曇野暮らしをつたえる ～歴史・文化、芸術の伝承・活用～

- 2 芸術、文化の活用・連携

- ・安曇野を訪れる方は高齢者も多い。「あづみん」を外部の人にも使えるような利便性を持たせ、高齢者にも優しい交通手段を対応させることでより多くの来訪者に楽しんでもらえるのでは。
- ・交通の利便性向上には賛成だが、田舎暮らしという面から多少の不便も楽しんでもらうこともいい。今回、特にコロナの影響もあり大勢が集まることは課題。現在の観光振興ビジョンは当然、コロナのことは想定されていないので、その面を含めて評価することも考える必要はある。
- ・安曇野には「ゆとり」がぴったり。不便を承知で行きたい、というくらいでいいと思う。
- ・シェアサイクルがあるのはありがたいが、特に外国人には使いにくいので改善されれば。
- ・山麓までの自転車は登りが困難。のんびり走れる感じではない。車側からしても危ない。

- 3 地域産業の活用・連携

- ・主要な名産品として天蚕は欠かせないもの。市民にも知らない人がいるので周知してほしい。
- ・「やまこの学校」は1年で飼育から織までをおこなう講座。今年度からは過去の受講生が運営委員になり県外などからも来て手伝っている。まさに安曇野暮らしを象徴するような活動。

(4) 安曇野暮らしをつなげる ～コミュニティとの連携～

- 1 コミュニティビジネスの支援

- ・外国人の中にはその土地の文化を味わいたいという需要が増えており、実生活に入り滞ることが魅力的な素材。ただ、商品イメージでとらえた場合、どこの家に滞在するかで差が出てしまう。今後の課題も多いと思われる。
- ・市内や県内の子どもの農業体験も大事では。ほとんどの子どもが農業経験がないと思われる。
- ・友好都市クラムザッハとの交流に高い予算をかけているが、市に来られる外国人はアジア系が多い。ビジネスとしては採算がとれていない。

- 3 移住希望者やリピーターとのネットワーク化の推進

- ・移住いただくのは嬉しいことだが、入った地区のルールを守っていただきたい。

## 協 議 事 項 等

- ・移住定住は自治体が人口政策でやっているのか。住みたいと思う人は自分で動くと思う。
- ・移住定住促進についてはNPO法人安曇野ふるさとづくり応援団の設立時のテーマでもある。よそから人を呼びこむことで自分たちも磨かれ、その人たちにも安曇野の良さを知ってもらえるということで、市が促進策を始める前から活動している。移住により単純に人を増やせばいいというものではない。受け入れる側にも選ぶ権利はある。区に入っただけでも最低条件だと思う。区のコミュニティにとけ込んでもらうための支援もしている。広い意味では安曇野を良くする、というなかで観光の仕組みづくりにも寄与している。
- ・移住者がいることで地域が刺激を受けるということもある。また、観光から考えれば、移住した方が発信基地となって友人・知人に発信することで遊びにきてもらうこともできる。
- ・ファインビューやほりでーゆーなどを連携都市の拠点にして安曇野を経験してもらい、住みたいと思えばその後住んでいただくというようにすれば。

### - 4 広域連携の推進

- ・観光誘客事業のメインであると考ええる。他市町村や市商工会や経済団体との連携も含まれる。
- ・異業種連携がまだまだかと思う。

### (5) 安曇野暮らしがうるおう ～観光関連産業の強化と波及効果の最大化～

#### - 1 観光関連産業の強化

- ・観光協会は穂高駅前にあるが来訪者は車で来る方が多い。他市町村では観光協会には大きな駐車場があり、パンフレットを入手し観光の相談をし車で出かけていくというパターンが多いが、安曇野の場合はまず観光協会に車がとめられない、という苦情も聞く。

#### - 2 農商工観連携の強化

- ・安曇野市でなければ買えないという土産が思い浮かばない。今後委員にも考えていただきたい。

### 令和2年度からの評価項目設定について

会長 今後どのように評価をしていくかを考えなければならない。現観光振興ビジョンを策定したときのポリシーを、当時策定委員だった委員からお話いただきたい。

委員 当時の眼目として、観光というものが大きく変わりつつあるということ。団体客だけではなく、むしろ大勢は個人・家族・グループにシフトしてきている。見学してまわる、だけでなく、そこに住む人たちとふれあう中で、チャンスがあればここに住んでみたいと思わせるような安曇野にしていく。住んでみたいところが行きたいところ。こうして観光振興ビジョンのコンセプトが決まった。単純に観光客を誘致するためのプロモーション戦略を立案する場所ではなく、自分たちも住みやすく、訪れる人も住みたくなるようなまちに、ある意味、安曇野をつくり変える。ストレートに観光に結びつかなくてもいろいろなアイテムがある。民間で努力している事例もたくさんある。そういうものを糾合して進めていかなければならない、と。観光振興ビジョンの欠陥をあえて指摘すると、これを誰が推進していくかという部分が欠けていること。市と市民と事業者とが連携して進めていくべきと記されているのに、対応する組織はできていない。推進するための絵柄が描かれていないにもかかわらずPDCAが描かれ、これは誰がやるのかという話になる。次回策定に向けては、推進していく組織を立ち上げ、観光課がコントロールタワーとなり進めていく。それによっではじめて、総合的な観光振興に向けての仕組みづくりができていくと思っている。

《会長から当会議の目的や職務などをあらためて説明》

《事務局から今後の進め方を説明》

委員 集客・誘客が最優先だと考える。例えば安曇野の「水」を使ってどう誘客するかを考え評価する基準を作らないと、的が大きすぎて矢を射っても中心に当たらない、ということになる。

会長 安曇野にある資源をどう観光に結びつけるかを考え、どうやったら来訪者に示せるか、集客手段はどうするか、集客ができれば利益にもつながる、という流れで考えていかないといけない。具現化して考えていく材料として、資源を活かす、観光の集客、ということを大きな主眼に入れてそれにより地元にお金を落とす、という最終手段を考えていただきたい。

委員 安曇野といえば池田町や松川村などを合わせて言われることも多い。これら広域に安曇野のイメージを求め来訪する方もいる。交通を含め広域連携を大事にしたほうがいい。また、市民も楽

## 協 議 事 項 等

しめる施設などについて市民向けの広報がほとんどない。ホームページだけでは弱い。

委員 プラットフォームとして機能すべき観光推進組織について、市内の関係団体の機能は熟成していない。より近い形にと突き進めると地域DMOという形になると思う。設立については観光協会でも検討課題のひとつになっているがすぐにはできないこと。

委員 他の部署で活動している内容は、観光面はあまり考えられず実施されていることもある。環境面では以前から、環境に配慮した政策を盛り込んでやることを全部署で指標をつくり取り組まれていると思うが、これに似た考えで、他部署に観光に対しての取り組みを指標で示し評価し市政につなげていくことはできるのではないか。ただ、環境の件に関しては国からの方針でもあるため観光面で同様にできるか不明。市全体の観光を推進していく組織がない、ということであれば組織がなくてもできる方法としてこのようなやり方もあるのでは。

会長 とても良い案。観光振興は市の総合計画にも関係しているので、事例として次の計画に反映させられるよう考えていければいい。

(協議終了)

会議概要は、原則として公開します。

会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。